

長門国「赤」と「長登」

—白雉改元の故地—

網 干 善 教

『孝徳紀』白雉元年二月庚午朔戊寅(9日)の条に白雉改元の由来を記録している。すなわち穴戸国司草壁連醜経、献白雉曰、国造首之同族贄、正月九日、於麻山獲焉。

とある。この白雉が献上されたことにより、その故事と意味について百濟君、道登法師、僧旻法師がそれぞれ所見を述べ、「休祥」ということになった。

これをうけて、甲申の日(15日)に

朝廷隊仗、如元会儀。左右大臣百官人等、為四列於紫門外。以栗田臣飯虫等四人、便執雉輿、而在前去。左右大臣、乃率百官及百濟君豊璋・其弟塞城・忠勝・高麗侍医毛治・新羅侍学士等、至中庭。使三国公麻呂・猪名公高見・三輪君甕穗・紀臣乎麻呂岐太、四人、代執雉輿、而進殿前。時左右大臣、就執輿前頭、伊勢王・三国公麻呂・倉臣小屎、執輿後頭、置於御座之前。天皇即召皇太子、共執而觀。皇太子退而再拜。

とあり、ついで巨勢大臣の賀奉、天皇の祥瑞の詔に、

穴戸國中、有此嘉瑞。所似、大赦天下。改元白雉。仍禁放鷹於穴戸界、賜公卿大夫以下、至于令史、各有差。於是、褒美国司草壁連醜経、授大山。并大給祿。復穴戸三年調役。

とある。

このように長門国において一羽の白雉の捕獲

とそれが献上されたことにより、その故事来歴や取扱い、意義付けをめぐって意見が述べられ結局「祥瑞」として「白雉」に改元されることになったという。

こうした文献を読むにつけ、この白雉が捕えられた「穴戸国麻山」とはどのあたりであろうか。どのような地形であろうかを知りたいという興味がある。

坂本太郎他編『日本書紀下』(日本古典文学体系68)のこの記述に関する頭注をみると次のように解説されている。

国造は穴門国造、首は名か。国造本紀に穴門国造は桜井田部連と同祖、邇伎都美命の後とある。神功紀に穴門直の祖踐立あり。

とし、「麻山」について

不詳。地名辞書は美禰郡赤村(今、山口県美禰郡美東町赤)にあるという。

とする。勿論白い雉という珍しい鳥を獲えた場所であり、現地を調査しても考古学上の遺跡ではないから、特定の地点を究めることはできない。ただ、その場所の現在地形の理解はできるだろうから一度、その「赤」という土地を訪れたいという願望はあった。

平成2年7月6日・7日の両日、長門、周防に赴く機会があり、7日の午前「赤」という場所に行くことができた。(10月6日にも再度同地を訪れた)



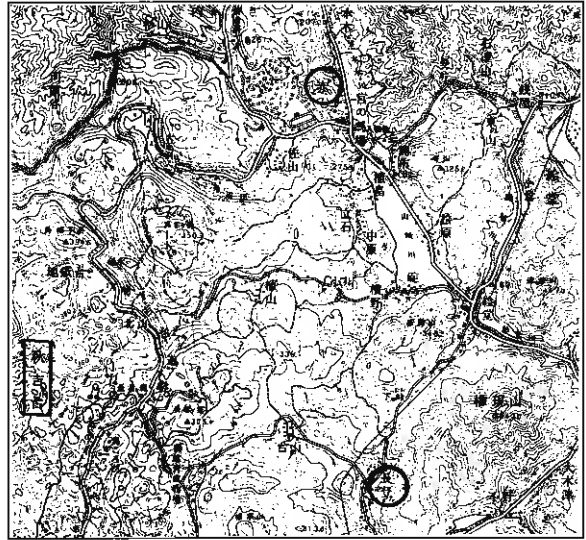
赤付近の地形

日本海に面する長門市から国道191号線を萩市に向い、途中三隅町から別れ、秋吉台、美東町を経て山口市に至る道路を走る。そのほぼ中間点に「赤」という地名がある。この道は起伏する中国山地の間を通過する。

「赤」は「赤郷」とも呼ばれ、低い山地が星々とする谷間の地形であって、雉の生棲しそうなところである。

ここから少し南に行くと「長登（ながのぼり）銅山跡」がある。昭和47年にそのなかの「大切製錬遺跡」の発掘調査が行われ、奈良時代の土器などと共に銅滓が出土し、銅山跡であることが実証された。その後、昭和63年3月に奈良東大寺の大仏殿西回廊の西側を防災工事の事前調査として発掘調査が行われ青銅滓などが出土した。この青銅滓が長登銅山より採掘した可能性の高いことで話題を呼んだ。

この調査のあとをうけて長登銅山跡では、美東町教育委員会がその年の8月、再び大切製錬遺跡の発掘調査が行われ、地表下約1.8mの位置で奈良時代の作業面を検出、土器などの出土が



赤と長登（国土地理院地図による）

あって、奈良から平安時代に製錬が行われていたことが実証された。

正倉院文書によれば奈良時代に長門産出の銅26,474斤が東大寺に施入された記録があり、地

元の長州藩が編した『防長風土注進案』にも「当村は金山所にて往古奈良の都の大仏を鑄させらるる時大仏鑄造の地金として当地の銅式百余献貢かしめらる其恩賞として奈良登の地名を賜わり、其比天領にて御制札にも奈良登銅山村とあり、し由言伝ふ」とあるとされている。

こうしたことから「赤」近傍の長登銅山も奈良東大寺との関係が深いことが知られる。

ところで、白雉改元の故地「赤」を訪れた日、知人が地元の新聞記事に長門国の小野田市で全身が白い羽毛で覆われたコウライキジが飼育されているという記事のあることを教示してくれた。まさに現代版「白雉」の出現である。奇しき縁であろうか。

なお、この長登銅山跡の発掘調査は現在も行なわれており、その成果が期待できる。

何かいいことありそうな…

山口新聞(2011年7月6日)

「白雉」の里で白いキジ

小野田 川崎さん宅でスクスク

山口新聞(2011年7月6日)の記事によると、小野田市小野田町の川崎さん宅で、全身が白い羽毛で覆われたコウライキジが飼育されているという。このキジは、長門国の「赤」近傍の長登銅山跡の発掘調査で出土した青銅滓が、奈良時代の作業面から検出されたことから、長門産出の銅と関係が深いことが知られる。

川崎さん宅で飼育されている白いキジは、長門産出の銅と関係が深いことが知られる。このキジは、長門産出の銅と関係が深いことが知られる。

平成2年7月6日付 山口新聞の記事